

日蓮大聖人御書全集

みょうほうあまごへんじ

妙法尼御返事

新版  
1999

みようほうあまごへんじ

# 妙法尼御返事

こうあんがんねん

がつ にち

さい

みようほうあま

まつのどの

えんじや

弘安元年 ('78)

5月1日

57歳

妙法尼

〈松野殿の縁者〉

にちがつ

ち

落

しゆみせん

崩

か

によにん

ほとけ

日月は地におち、須弥山はくずるとも、彼の女人、仏に

な

たま

うたが

頼

成らせ給わんこと疑いなし。あらたのもしや、たのもしや。

ほ いいいと

ふるさけひとつ

粽

青

筍

かたがた

干し飯一斗・古酒一筒・ちまき・あおざし・たかなな、方々

もの

おく

た

そろうろう

の物、送り給びて候。

くさ

咲

はな

き

かわ

こう

ほとけ

たてまつ

ひと

りようじゆせん

草にさける花、木の皮を香として仏に奉る人、霊鷲山

まい

たみ

骨

碎

はくまい

ひと

へ参らざるはなし。いわんや、民のほねをくだける白米、人

ち

搾

古

酒

ほとけ

ほけきよう

の血をしぼれるがごとくなるふるさけを、仏・法華経にま

いらせ給える女人の成仏得道、疑うべしや。

たま

によにん

じょうぶつとくどう

うたが

ごがつついたち

五月一日

にちれん  
日蓮

かおう  
花押

みようほうあまごへんじ

妙法尼御返事